

最優秀賞

神奈川県教育長賞

思いやり

相模原市立藤野小学校（緑区）

四年 小嶋 葉央

わたしのお母さんは昔、病院で働いていました。その時、かん者さんの中には耳の聞こえない人がいたそうです。その人がしんさつに来ると、受つけや薬の説明など紙に文字を書いてやりとりをしていました。それを見て「もつとスムーズにできたら良いのに。」と思ったそうです。

お母さんは自分で手話ができたら、少しお手伝いができるかもしれないと思ったそうです。そして手話こう習会へ勉強をするために通いました。

少しずつ手話を覚えていく中で、耳の聞こえない人や目の見えない人達が、どんな事で苦ろうをしているのかにも気づかされたそうです。

お母さんが働いていた病院に、耳の聞こえない人がしんさつに来た時、お母さんが覚えた手話であいさつをしたらとてもよろこんでくれたそうです。

ちょっとだけしか関われなかつたけど、勉強して良かったとお母さんは話してくれました。わたしはこの話を聞いて、ちょっとした相手の思いやる気持ちがあれば、相手だけでなく自分自身も幸せな気持ちになれると思います。お母さんの手話にちょう戦する行動力もすごいなと思いました。わたしが同じ立場に立った時、わたしに同じ事ができるかどうか、考えるきっかけにもなりました。

わたしも手話にきょう味が出てきたので、耳の聞こえない人の手助けが少しでもできたらと思い、少しずつですが手話を勉強しています。

世界中のみんなが、自分の事ばかりでなく、ほんのちょっと相手を思いやるやさしさがあれば、戦争もなく平和でみんなが幸せになれるはずなのだと思います。